**姿勢と歩行研究会　抄録原稿書式例**

○講演者名1， 講演者名2(口頭発表者には名前の前に○をつける)

(1○○大学医学部耳鼻咽喉科， ２○○総合技術研究所）

**書式は，原則として、**

**・A4サイズで行数40， 20文字／行，段数2**

**余白は，　　 上下左右25mmとする。**

**・字体は、　　 MS明朝体**

**・文字のフォントは、**

**タイトル14， 講演者名・所属12，**

**本文11とする。**

**・一般演題は最大２ページとする。**

**（但し，特別講演は，最大４ページまでとする。）**

**・印刷は原則白黒とする。**

**・読点は,　カンマ「，」とする。**

**句読点「｡」は，そのまま使用する。**

**・ファイル名は，B.姿勢と歩行研究会2023抄録（氏名）としてください。**

**研究目的***（はじめに）*

走行台をサーボモーターの駆動力で急加速させる装置)により，被験者に急加速負荷刺激を与えて，立位姿勢の安定性を評価した1)｡しかし，リニアアクセラレータのレールが長いために大型の実験室を必要とする｡本機を用いた基本的な測定法について検討を行った｡

**方法***（実験方法，研究方法，調査方法他）*

　立位姿勢に矩形波状の加速力を与えた時に，姿勢を保持できる限界の加速度とその加速時間との関係を検証してきたなど｡その結果，立位バランスを失わせる限界加速度は加速時間の逆数値に比例することを確証した｡直線的な関係から，ある二点の特性が定まれば全体の傾向がつかめることになる｡本機はこの理論を基本としているが，直線性を再検証するために本報では二点以上の加速時間についても限界加速度を測定している｡

図１　測定装置

**実験***（研究結果，調査結果，解析結果他）*

　被験者は男子で，2グループに分けた｡

　本機の走行台の移動距離が短いため，加速後の走行時間を長く取れない｡加速後から減速までの一定速度走行の持続時間が長ければ長いほど減速ブレーキによる揺れ戻しは生じにくい｡

表１　測定結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| １ | 2 | 3 | 4 |
| Ａ | 11 | 22 | 33 |
| Ｂ | 21 | 22 | 23 |
| Ｃ | 31 | 32 | 33 |

**考察と結論***（まとめ他）*

　男子若年齢者による実験では，加速後に減速するまでの一定速度走行時間を少なくとも1000 ms以上取る必要がある｡

**参考文献**

1) 永田久雄：急加速刺激を加えた場合の立位姿勢の安定性評価装置の開発，人間工学，27(4)，221-223，1991.